

努力事項解説 その2 (小学校音楽)

児童が、音楽を形づくっている要素（音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み）を聴き取り、音楽のよさや美しさと結び付けて感じ取ることができるような授業の展開を構想する。

これは

児童が、曲を歌ったり聴いたりしたとき、「この曲を歌うと寂しい感じがするのは、寂しい内容の歌詞や、短調の和声の響きだからだと思う。歌っていると寂しくなるけれど、お気に入りの曲です。」とか、「この曲がはつらつとしていて明るく感じるのは、最初のトランペットの音色が明るくてリズムも弾んだ感じだからだと思う。だから僕はこの曲が大好きです。」など、音楽の要素（この場合、トランペットの輝きのある音色、付点音符の弾んだリズム、寂しい感じの短調の和声の響きなど）を聴き取り、それがその音楽独特のよさや美しさを生み出しているということを感じ取ることができるように、さまざまな工夫をして授業を行いましょう

ということです。

- 1 音楽を形づくっている要素（音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み）には次のものがあります。

「音楽を特徴付けている要素」

- 低学年 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズ
- 中学年 低学年のそれに加えて、音の重なり、音階や調
- 高学年 中学年のそれに加えて、和声の響き

「音楽の仕組み」

- 低学年 反復、問いと答え
- 中学年 低学年のそれに加えて、変化
- 高学年 中学年のそれに加えて、音楽の縦と横の関係

なお、次の事項も「音楽を形づくっている要素」に含まれます。

歌詞、歌い方や楽器の演奏の仕方、演奏形態など

2 音楽を形づくっている要素について、ひとつずつ解説していきます。

(1) 音楽を特徴付けている要素

① 音色

音色とは、声や楽器などの様々な音の表情のことをいいます。例えば、「A君の声は柔らかい音色だね。」「あなたの声は透き通った感じの音色ですね。」と言ったり、楽器だと、「ホルンは勇壮な感じの音色を出すことができます。」とか、「トロンボーンは愉快なとぼけた感じの音色です。」などと言ったりする場合は音色にあたります。

② リズム

リズムとは、音楽では、「いろいろな長さの音符が組み合わされてできている拍の流れ」という意味でとらえています。「今の演奏はリズムに乗っている。」とか、「リズム感がある。」と言ったり、「この曲はワルツのリズムだ。」とか、「マンボのリズムは軽快で自然に体が動き出しそうだ。」などという使い方をします。

③ 速度

速度とは、「音符1つあたりの時間の長短」のことです。よく、「この曲は速度が速いね。」とか「ゆっくりの曲だね。」と言ったりしますが、音符ひとつあたりの時間が短いと進み方が速くなり、長いと遅くなります。曲の雰囲気や左右する大きな要素のひとつです。楽譜にはアレグロなどの速度記号や、四分音符ひとつ分の時間の長短を数字で指定します。

④ 旋律

「メロディー」ともいわれ、「リズム、メロディー、ハーモニー」という音楽の三大要素のひとつです。解説するのは難しいのですが、あえて簡潔に言うなら「リズムを伴った音の連続した連なり」です。「この曲のメロディーは簡単で歌いやすい。」とか「この曲の旋律は、音が上がったり下がったりしていて歌いにくい。」などと使うことが多いと思います。

⑤ 強弱

強弱とは、音の大きさのことです。また、強く演奏することを「フォルテで演奏する。」、弱く演奏することを「ピアノで演奏する。」と言ったりします。強弱の変化はとても大切です。例えば、ピアノから次第に強くしていくことを「クレッシェンドする。」、その逆を「デクレッシェンドする。」と言います。この、強弱の変化を、「デュナーミク」と言い、音楽を生き生きさせる大きな力を持っています。

⑥ 拍の流れ

拍の流れとは、「拍が一定の時間的感覚で刻まれること。」です。例えば、行進曲などで拍に合わせて行進することは、「拍が一定の時間的感覚で刻まれているのに合わせて脚を交互に前に出す。」となります。また、拍の流れには「拍の流れに伸び縮みがあること。」も含まれます。これは、曲が速くなったり遅くなったりすることです。音楽用語では、これ（速度の変化）を「アゴーギク」といいます。

⑦ フレーズ

フレーズとは、「音楽の流れの中で、自然に区切られるまとまり」のことです。フレーズを生かして演奏することを「フレーズング」といいます。ひとつのフレーズを切れ目なく繋げて演奏することを「レガートで演奏する」と言います。

⑧ 音の重なり（第3学年及び第4学年以上）

音の重なりとは、「複数の高さの音が同時に鳴り響くことによって生まれる縦の関係」のことです。同時に2つ以上の音の高さの違う音を鳴らしたときの響きのことです。当然、和声も含まれますが、それよりももっと広い意味で使われます。

⑨ 音階（第3学年及び第4学年以上）

音階とは、「音をおよそ1オクターブ内で高さの順に並べたもの」です。西洋音楽で用いられる「ド」を始まりとした「ドレミファソラシド」の音階、「陽音階、陰音階」などの日本の音階、様々な国で使われている5つの音でできている「五音音階」など、さまざまな音階があります。

⑩ 調（第3学年及び第4学年以上）

調とは、西洋音楽で用いられる「ド」または「ラ」を始まりとした「ドレミファソラシド（長調）」または「ラシドレミファソラ（短調）」のことです。最初の音の違いからたくさん種類があります。その中で、小学校では、中学年で「ハ長調」を、高学年で「ハ長調」と「イ短調」を学習することになっています。

⑪ 和声の響き（第5学年及び第6学年）

和声の響きとは、「調のある音楽での音の重なりとその響き」です。代表的なものに「ドミソ」、「ドファラ」、「シレソ」などの機能和声があります。「ハーモニー」とも呼ばれます。

(2) 音楽の仕組み

① 反復

反復とは、「旋律やリズムの繰り返し」です。繰り返しには、「リズムや旋律などが連続して繰り返される反復」、「音楽のいくつかの場所で合間をおいて繰り返される反復」、「A-B-Aの三部形式に見られる再現による反復」などがあります。

② 問いと答え

問いと答えとは、「ある音やフレーズ、旋律に対して、もう一方の音やフレーズ、旋律が互いに呼応する関係にあるもの」という意味です。例えば、Aという問いに対して同じようにAと答えるもの（模倣）、Aに対してBやCといった異なった音やフレーズ、旋律で答えるもの（対照）、長いAに対して短いBを挿入するもの（合いの手）などがあります。また、一人が歌いかけ、それに大勢が答えて歌うという形式（※音頭一同形式といいます。）というのがあります。

③ 変化（第3学年及び第4学年以上）

音楽の仕組みとしての変化とは、「音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組みのかかわり合いが変わることによって起こる曲調の変化」という意味です。第3学年及び第4学年以上になると、ある程度複雑な構成の曲を歌ったり聴いたりするようになります。そういった場合、曲の調子が途中で大きく変わる場合がでてきます。そういう、曲の途中での曲調の変化も聴き取っていくようにしましょうということなのです。

④ 音楽の縦と横との関係（第5学年及び第6学年）

音楽の縦と横との関係とは、「音の重なり方を縦、音楽における時間的な流れを横と考え、その縦と横の織りなす関係」という意味です。

⑤ 歌詞、歌い方や楽器の演奏の仕方、演奏形態など（※1参照）

○ 歌詞

これは、「歌詞の内容を感じ取ったり理解したりして、それを生かして歌ったりすること」です。歌詞があらわそうとしている内容が、うれしいことだったり、悲しいことだったり、なにかを訴えている内容だったら、それを聴いている人に伝わるように、一つ一つの音を強調して歌ったり、訴えたい歌詞の部分を強く歌ったりと、音楽の要素を生かして歌うことです。

○ 歌い方や楽器の演奏の仕方

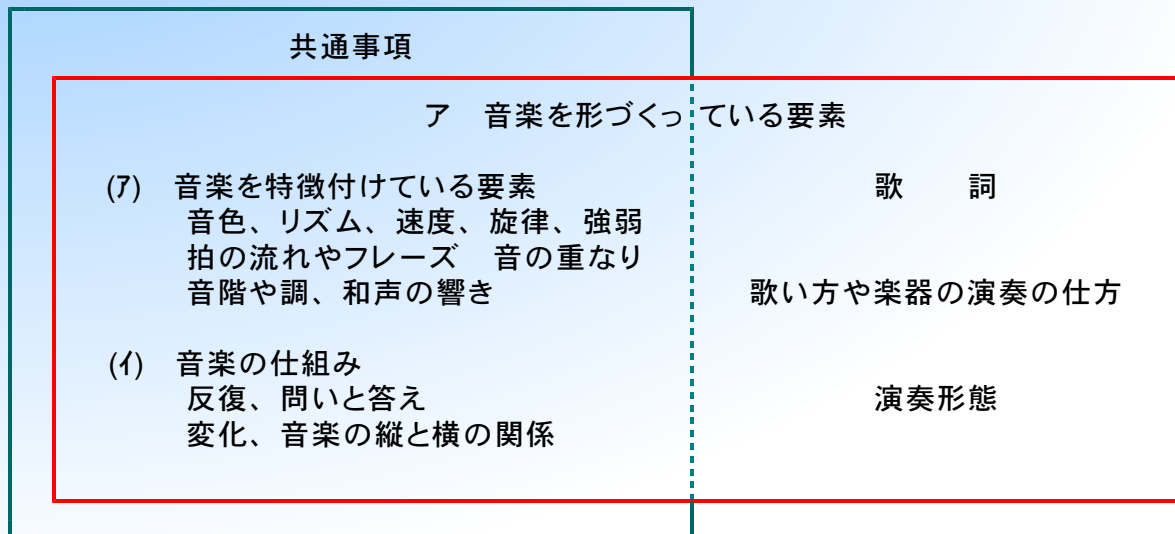
これは、「歌うことや楽器を演奏したりするときの基本的な声の出し方や楽器の扱い方を身に付けたりすること」です。具体的には、歌う場合は基礎的な共鳴法や呼吸法を小学生という発達段階を踏まえて身に付けること。楽器を演奏する場合は、楽器によりますが、運指やそれぞれの楽器固有の基礎的な演奏の仕方を身に付けることです。

○ 演奏形態

これは、「1人で歌うこと（独唱）、みんなで複数以上の旋律を歌うこと（合唱）、1人で演奏すること（独奏）、2人で演奏すること（二重奏）、大勢で演奏すること（合奏）、異なる楽器を組み合わせで演奏すること（さまざまな合奏）というように、さまざまな演奏形態があることを知り、それを体験してよさや面白さを味わうということ」です。

さまざまな演奏形態を児童が自ら選択して思いや意図を持って表現していく活動を取り入れていきましょう。

(※1) なお、「⑤ 歌詞、歌い方や楽器の演奏の仕方、演奏形態など」は、共通事項ではありませんが「音楽を形づくっている要素」に含まれる大切なものです。(小学校学習指導要領解説音楽編P.18 14行目参照) 共通事項と関連させながら指導していきましょう。



次回は、これらの要素を踏まえた「実際の授業の展開の例」について、考えてみます。

7月12日（金）頃、アップする予定です。